

原典で読む—中国古典の英知

中国重要古典を総集、その全文を収載した最高峰の大系
厳密な校閲を経た本文と書き下し文に、
通訳・語訳・余説を施し、索引を完備

新釈漢文大系

58年の歳月をかけ、全120巻 別巻1 完結



明治書院

新訳漢文大系の編集と刊行について

昭和三十五年五月、「新訳漢文大系」第一巻論語を発刊してから二十余年、この間、第一期の二十二巻刊行の完了するころ、多くの読者や各界の要望が強いのに感激して、第二期、第三期と、中国重要古典統刊の枠を拡げて、膨大な叢書刊行へと進展した。思えば、爾來遅々たる憾みはあつたが、読者や各界へご迷惑をかけつつも、幸にも各位の忍耐あるご支援とご協力が得られ、編集者並びに明治書院関係者一同、感謝に堪えないものがある。

さて、かくて予定の刊行を進めたが、執筆者の研究成果が広深になるなどで発表の巻数に異動を生じ、また学界の要望では非とも編入して残したい典籍もあり、再三変更して、今日に至っている。読者各界にはご迷惑なうんと恐縮しつつ、ご了解賜つて、引き続いご愛読いただきたい。

かくして、全巻刊行の暁には、本大系出版当初の企画であつた、漢文の基本的原典の全文を網羅し、本活字の原文に、清新な解釈と詳密な注解を併せた叢書を後世に遺し、中国文化の重要な古典の原型と索引を併用することで、その研究資助と導入の役を果すと共に、わが国伝統文化の昂揚に貢献し得るものと信ずるのである。願わくは、今後も引き続き各方面のご協賛を賜り、編集者の冀望と明治書院の使命完遂をご後援いただきたく、懇望する次第である。

昭和五十九年十一月

編者 内田泉之助 吉田賢抗 林秀一 宇野精一 目加田誠

内容の特色

- 中国古典（全完本）を総集し、加えて日本人による漢詩の秀作も網羅した（『日本漢詩』上下）。さらに『漢籍解題事典』を備えて、完璧を期した大系。
- 本文は厳密な校合（二種類以上の写本などを見比べながら本文の異同を検証したり、誤りを正す作業）を加え、これに平易な書き下し文を上下に対比することで、読みやすさに努めた。
- 各巻の初めには、その巻の特質をわかりやすく解説した解題を置き、筆者の新たな見解を加えて、読者に興味深い導入となるように心がけた。
- 各巻の特色にあわせて、重要語句・書名・人名の各索引を設けた。
- 「余説」は、諸説を挙げ、問題点を論究したほか、関連事項も載せた。
- 「語釈」は、訓読・考証を精密に行い、語法も加えることで、詳密な学究的な分析を加えた。
- 執筆陣は、現代中国学界第一線で活躍している研究者を起用し、中国古典を網羅した最高峰の解釈書となつた。
- 高校・大学などの教育研究機関や公立の図書館には必備の書として、広くご活用いただきたい。

体裁

第1巻 論語

吉田賢抗著
四七一頁

論語

吉田賢抗著
四七一頁

大学・中庸

赤塚 忠著
三六〇頁

第2巻

小学

宇野精一著
五三三頁

第3巻

孟子

内野熊一郎著
五六四頁

第4巻

荀子 上下

藤 専英著
四四八～四九一頁

第5・6巻

老子・莊子 上

阿部吉雄著
山本敏夫著
市川安司著
遠藤哲夫著
三四〇頁

第7巻

莊子 下

市川安司著
星川清孝著
遠藤哲夫著
五四八頁

第8巻

古文真宝(前集) 上下

星川清孝著
四五六～四八〇頁

第9・10巻

古文真宝(後集)

星川清孝著
四五六～四八〇頁

第16巻

韓非子 上下

竹内照夫著
四六〇～四八〇頁

第11・12巻

荀況の門人、戦国時代の法家・韓非の著。彼は荀子に学んで性悪説の影響を受け、老子の虚無説を參照して、商鞅・申不害の法家思想を大成した。高遠な哲理のみを弄ぶ、実際生活の上に立つて信賞必罰を説き、法の権威を強力に主張した。その文章は明快で、達意の文章として後世の模範となつた。これをひもとけば法家思想の粹を知ると共に、戦国末期の時勢と人心の傾向などを知ることができる。

周から宋代に至る著名な詩文を集めた珠玉集。宋の黃堅の篇といわれる。『古文真宝』前後集は、『唐詩選』や『文章軌範』とともに、詩文を学ぶ者の必読書であった。そして『唐詩選』や『三体詩』が唐の詩に限られ、『文章軌範』も唐宋の文を主としているのに対し、『古文真宝』前集は、古詩十九首や樂府、六朝の諸篇、唐宋の名作を網羅し、諸家は李白・杜甫・蘇軾・韓愈・陶淵明など六十家に及び、古詩の精華が親しめる。

『老子』は周代の哲人・老聃の著である。老子の説をうけて無為自然をたつとび、孔子を嘲り、仁義をそしつて、儒教の立つ基盤を根底からくつがえそうとする主張もある。しかし、実は深遠複雑な思想がひそむ。後漢以降はいわゆる道教の聖典的存在として賞された。またその文章はきわめて詩的で象徴的に述べた。その説は道家的思想として儒教とならび、中国思想の一大系統を作った。本巻には量の都合で次巻に収めるべき『莊子』の半ばを収録した。

孔子の孫、子思の門に学び、孔子の説いた道徳精神を深く究め、性善説に立脚して仁義を説き、王道を唱えた孟軻が、諸国を遊歴して諸侯や弟子たちと問題論議した要点を記録したもの。人間が本来備えている心の善性を伸ばすべき道と名づけて、その道はあらゆる対立を越える超認識的存在であることを、長く後代に大きな影響を与えた。また、その門下から秦の宰相・李斯や法家思想の代表であった弁韓非らを輩出した。一方で、儒教では忌避されることもあり、清代で再評価が進んだ。荀況が諱々と説いた学説は孟子とあわせてまた精読を必要とする古典の一つ。

『小学』は『大学』の書に対する題名で、経書から、児童教育の道に関するものを抄録したもの。朱熹の指示によって編集された。内外一篇に分かれ、内篇は主として数学の要旨と修養の方法などを概説し、外篇は漢・唐・宋の諸賢哲による善言・善行を具体的に叙述して、内篇の意を説明する。全巻を通じて教育の基礎確立に資する面が多い。後世の日本でもよく読まれ、諸藩の初学教育の教科書として用いられた。現代にあっても多くの示唆を与える。

『大学』は『大學』の書に対する題名で、経書から、児童教育の道に関するものを抄録したもの。朱熹の指示によって編集された。内外一篇に分かれ、内篇は主として数学の要旨と修養の方法などを概説し、外篇は漢・唐・宋の諸賢哲による善言・善行を具体的に叙述して、内篇の意を説明する。全巻を通じて教育の基礎確立に資する面が多い。後世の日本でもよく読まれ、諸藩の初学教育の教科書として用いられた。孔子とその弟子の言行録で、儒教の根幹をなす聖典として、唐代には『孝經』とともに科举に用いられた。宋の司馬光が抜き出して『大学広義』を作り、さらに程明道(程顥)に至って、孔子の遺書としない、儒教を構想した。朱熹はこれを孔子の言葉を弟子の曾子とその門人たちの記録として重んじ、注釈を附して『大學章句』として世におこつた。『中庸』も『礼記』の中の一篇。孔子の孫、子思の作と伝えられる(後世に付加され、秦または漢代に成立ともいわれる)。誠の理論と天人合一の理想を述べた儒学の教理として重んじられた。朱熹はまた『中庸章句』を作り、論・孟・学・庸をあわせて四書とした。

孔子とその弟子の言行録で、儒教の根幹をなす聖典として、唐代には『孝經』とともに科举に用いられた。宋の朱子は論語集注を著すなど、古くから東洋で最も重んじられてきた書。編者は明らかになつておらず、漢代にまとめられたと考えられる。日本には応神天皇の代(二八五年)に百濟から伝来し、日本の歴史・文化を考察するうえで、第一に熟読が必要なのが『論語』。本書の執筆担当者は親しみやすい解説と評証によって、現代の学界と読書界に再認識してもらおうと努力した。昭和五十一年新研究を加筆増補。

第25・26巻 書經 上下

加藤常賢著
小野沢精一著

二五六・二七〇頁

古くは「書」といい、漢代以後に「尚書」と呼ばれ、「書經」と言われるようになったのは宋代といわれる。『書經』は虞書・夏書・商書・周書など、唐虞・三代にわたる政道の記録であり、中国最古の文献に属する。編者は孔子とも伝えられ、歴代の名君・賢者が残した語録集であり、中国における政治文化の発生と理想を語る好資料として、古來帝王の必讀經典となつた。從来邦訳は少なかつたが、本書によつて精緻で明快な注釈が施された。

第27・28・29巻 礼記 上中下

竹内照夫著

二八〇・三八八頁

礼の三部書、いわゆる三礼に周礼・儀礼・礼記がある。中国古代の官制を記した周礼、また士人の冠婚葬祭に関する礼儀を記した儀礼に対し、礼記はさらに進んで、礼に道德的精神的意義を与えた。唐代以後儀礼に代わって五經の一に列する。大学・中庸も、本米礼記中のそれぞれ一篇を成すものであり、なかでも「樂記」・「月令」・「學記」等の緒篇は、東洋の芸術觀・自然觀や教育の本質を探る上で、重要な現代的意義を提供する。

第30・33巻 春秋左氏伝 一～四

鎌田 正著

四四二・五七〇頁

楚辭

星川清孝著

三六一頁

第34巻 孝經

栗原圭介著

四一二頁

戦国時代の楚地方の歌謡の意味で楚辭という。『詩經』が口言句を主体とするに対し、『楚辭』はあると同時に「孝」が「経」と合わさつたところに意味がある。『古文孝經』に、「子曰々、夫レ孝ハ、天之経也。地之誼也。民之行也。」とある。『孝經』の語はこれによつたもので、「孝」が天地の経であれば、人が天の経に則り、地の経によつて、父母に仕えることは、きわめて自然の道理であると説く。個人の道徳から政治まで孝を根本原理と説き、古代中国の社会・政治の支柱となり、儒家の「五経」として尊び、『楚辭』は最高の文学として評価された。

第35巻

孫子 吳子

天野鎮雄著

五二八頁

第36巻

近思錄

市川安司著

六九八頁

第37・41・116巻 史記 一～四

(本紀上・下)
(十表上・下)

(八書)

三五六・五〇〇頁

『史記』百三十卷のうち、最も生彩を放ち、司馬遷が史家としての本領を見せてゐるのは、この「列伝」七十卷である。地位の高低を問わず、事の成功不成功を論ぜず、大臣・將軍・学者・商人から、俠客・刺客等に至るまで、一代で名声を馳せた者あるいは不遇に生涯を終えた者など、人間像の数々が収録されている。「本紀」を仮に『春秋』の経文になぞらえるならば、「列伝」はその伝文の立場に置かれる性格のものである。人物本位に記述される中国史学の特色の範型となつたのがこの「列伝」である。

第38・41・87巻 史記 五～七

(世家)
(上・中・下)

三五六・四四四頁

『史記』百三十卷のうち、最も生彩を放ち、司馬遷が史家としての本領を見せてゐるのは、この「列伝」

第115・88・120巻 史記 八～十四(列伝)～七

青木五郎著

三九〇・五七〇頁

史記

八～十四

(列伝)～七

青木五郎著

三九〇・五七〇頁

『史記』百三十卷のうち、最も生彩を放ち、司馬遷が史家としての本領を見せてゐるのは、この「列伝」八十卷である。地位の高低を問わず、事の成功不成功を論ぜず、大臣・將軍・学者・商人から、俠客・刺客等に至るまで、一代で名声を馳せた者あるいは不遇に生涯を終えた者など、人間像の数々が収録されている。「本紀」を仮に『春秋』の経文になぞらえるならば、「列伝」はその伝文の立場に置かれる性格のものである。人物本位に記述される中国史学の特色の範型となつたのがこの「列伝」である。

第42・43・52巻

管子 上中下

遠藤哲夫著
四五八・五四一頁

春秋時代、齊国の名宰相と謳われた管仲は、十六代君主・桓公に仕え、春秋五霸における覇者へと高めた。現存の『管子』七十六篇は、管仲およびその門流の手によって成立したと伝えられる思想書。有名な「倉廩実れば則ち礼節を知り、衣食足れば則ち榮辱を知る。」といった名言を始め、その主唱する政治哲学・経済政策など、異彩を放つ卓論が随處に見られる。古来、経綸の要典として尊重された。

第44巻

唐代伝奇

内田泉之助著
乾 一夫著
四六四頁

唐詩とあわせて、唐代の文学を特色づけるものに伝奇小説がある。その作品はいずれも文語体の短篇であるが、前代のいわゆる小説と比較すれば、作者の創作意識が明瞭さを加え、たんに事柄の記述から、心理描写に広がりを見せた。作者の多くは当代著名な文人で、事は新奇、情は深淵、辞は流麗で風韻に富み、後代の戯曲・小説類の源流となつたものが多い。本書は、その中から傑作として定評のある二十一篇を選んだ。

第45・46巻

日本漢詩 上下

猪口篤志著
三六八・四二一頁

近來、漢詩文に関する著作は多い。しかし、日本人の作による漢詩については、ほとんどみるとできない。漢詩は日本で独特の発展を示し、時には本土の作品を凌駕するものさえあった。本書は「懷風藻」、五山文学をはじめ、丈山・順庵・白石、また全盛期となつた文化・文政の山陽ほか、象山や松陰に至る、日本漢詩文のすぐれた作家を収載し、日本漢詩の歴史に触れることができる。

第47・48・49巻

戦国策 上中下

林 秀一著
四一八・五四四頁

周未戦国の世に当たり、公孫衍・陳軫・蘇秦・張儀等の策士・説客は、得意の知弁をもつて、諸国を往来した。これらの事跡を国別に収録した書が『戦国策』である。現存三十二篇、前漢の劉向が編纂した。周未の激動期を活写した『戦国策』は、『春秋左氏伝』に繼いで、最も有力な当代の資料。宋の朱晦庵は、この書を「乱世の文、英偉の氣あり」と評した。司馬遷は『史記』の執筆に当たって多くを参照し、三蘇（蘇洵、蘇軾、蘇轍）の名文も、この書に由来するところが多いといわれる。

第50・51巻

墨子 上下

山田 琢著
四一一・四三六頁

現存の『墨子』五十三篇は、周未戦国期に活動した墨翟、およびその門下たちの思想を伝えるものである。論旨の要点は、天意に基づく平等博愛の高唱、侵略戦争の否定、儉約と勤労の実践、人材登用における門戸の解放等であり、いずれも当代の社会の盲点を衝き、庶民の生活感情に立つた主張が濃厚である。漢の武帝による儒教の國教化以来、墨子は異端視され、長く顧みられなかつた。しかし『墨子』は西洋思想が流入した清代末期に、西洋の近代思想や科学との類似から再び注目が集まり、再評価されるに至つている。

第53巻

孔子家語

宇野精一著
六三四頁

孔子の言行、ならびに弟子たちとの問答を記したといわれる。現存の書は十巻四十四篇。古来、魏（三国時代）の王肅の偽作といわれる。多くは『左伝』『國語』『孟子』『荀子』『呂氏春秋』『韓詩外伝』『大戴礼記』『禮記』『說苑』『韓非子』などの古書に拠り、記事を類別収録したものであるから、『論語』の輔翼としての価値は十分に認められるだろう。各章の本文は、『論語』と比べて、おおむね長文に属し、地理・習俗・神話・伝説・本草（漢方・薬物学）などにわたり、当代における知識を総合して論述しようと編纂された。中国上代の思想・倫理・信仰・民俗に関する資料的としても価値が高い。

第54・55・62巻

淮南子 上中下

楠山春樹著
三九六・五二八頁

『淮南子』は二十一篇一千余万言が現存し、別名に『淮南鴻烈』ともいう。前漢の淮南王・劉安の編。劉安は學問・文学を愛し、賓客を好み、多くの学者や方術の士（中国古代における神仙の術を身につけた者）と、しばしば自然・人事に関する諸問題を論じ合つた。その筆録が『淮南子』である。全編を流れれるものは道家思想であるが、儒家・墨家・法家の思想も混在する。論及の範囲は広く、天文・曆数・地理・習俗・神話・伝説・本草（漢方・薬物学）などにわたり、当代における知識を総合して論述しようと編纂された。中国上代の思想・倫理・信仰・民俗に関する資料的としても価値が高い。

第58・59巻

蒙求 上下

早川光二郎著
五四四・五八四頁

唐の李翰は、童蒙のために歴史的教訓歌の体裁をとつた児童向け教科書を作つた。これが蒙求の原形である。こんにちではその後、宋の徐子光が加えた補注が本文のようにはげられ、歌はその標題として見なされるようになった。『蒙求』は広く經史子集の類から、古人の行跡を探録したことから、数百千巻にのぼる漢籍に盛られた故事・成句が、この一書に凝縮されている。しかも登場する多様な人間像とその行動は、読者の興味を誘つて尽きない。

第60・61巻

玉台新詠 上下

内田泉之助著
三六四・四〇〇頁

南朝・陳の徐陵の編、十巻。先秦以後、漢代に至る詩文は、もっぱら政教の具として考へられていていた。しかし、魏晋以後は自然美を追求し、文学自体の価値が認められるようになつた。こうした気運は、文学批評の傾向と、詩文選集の事業を促し、『玉台新詠』は、ほぼ同時代に『文選』と並んで編纂された。『文選』は各テーマにわたって詩・賦など各文体の模範を示すとしたのに対し、『玉台新詠』は漢から梁に至る五言詩および樂府の類を收め、いずれも綺羅で艶麗な恋歌詩歌を載せている。『文選』と合せて読むことで、六朝文学や当時の文学觀の探求に、重要な資料である。

第64・65巻

文心雕龍 上下

戸田浩暁著
三五四・四〇四頁

梁の劉勰の著、十巻。南朝齊・梁の時代に活発な文芸批評が現れた。その代表的な書として、梁代鐘嶸の『詩品』とともに、劉勰の『文心雕龍』が挙げられる。『文心雕龍』は文学の原理、詩文の体製を論じ、文章制作の原点、修辞法などに説き及ぶ。六朝期の評論としては、この一書に集成された記念碑的存在である。注目すべきところは、文学の本質として、自然・情感・個性・声韻などを、特に取り上げて重視した点に求められる。

第66・67巻 国語 上下

大野 峻著

三九四・四六八頁

国語 上中下

第68・69・94巻 論衡 上中下

大野 峻著

六一〇・六七一頁

第70・75・114巻 唐宋八大家文読本 一～七

星川清孝著
遠藤哲夫著
田森 裕著
向嶋成美著
高橋明郎著
沢口剛雄著
三七一～五三四頁

三四六～五二四頁

唐代の中期以後、八世紀末から韓愈・柳宗元によつて唱えられた古文運動は、十一世紀、北宋の欧阳脩に受け継がれ、その門下蘇洵・蘇軾・蘇轍や、王安石・曾鞏らが輩出した。唐代から宋代にかけてこれら八人の文人たちを唐宋八大家と呼ぶ。彼らが目指した「駢文」に対し、新たな散文体の創作は、宋代以後、時代の要請と相俟つて、散文の主流を占めるようになり、文章の範型として重んじられた。

八大家の文章を各人ごとにまとめた書として、明代後期の茅坤による『唐宋八大家文鈔』百六十四巻がある。そしてこれを厳選し評価を加えたのが清の沈德潛による『唐宋八大家文讀本』三十卷である。日本には寛政年間に伝えられ、藩校・私塾の教本として広く読まれた。

第76・77・78巻 世説新語 上中下

目加田誠著
三四六～五二四頁

中国名詞選

馬嶋春樹著
四〇八頁

「詞」は韻文形式の一つであり、八世紀ごろの民間の歌謡や外来の音樂の刺激を受けて発達し、宋代に至つて大成した。詩形は曲調に合わせる関係上、長句・短句が錯綜することから、長短句ともいい、また詩余・填詞とも呼ぶ。琴を伴奏楽器とし、初めは女性の可憐な心情や姿態などを素材としたが、唐末から五代・宋と進むにつれて、作風・題材とともに個性味を帯び、本来の詩とは違つた叙情の世界を醸し出した。本書は、唐・五代（二十人）、宋・金（五十人）、元・明（十五人）、清・現代（十四人）の各時代から古人の詞人を厳選した。

第95・96巻 貞觀政要 上下

原田種成著
四六六～五三八頁

中國名詞選

馬嶋春樹著
四〇八頁

「貞觀政要」は、貞觀の治と呼ばれる太平の世を築いた唐の太宗と名臣たちの政治言行録で、治政の鑑を伝える。政治の要諦を伝える「貞觀政要」は、後世から現代まで為政者の教科書として広く読まれた。しかし刊本は誤脱がおびただしく、恣意的な変質がなされた。本書は筆者新発見の唐鈔本系の古写本によつて校勘した定本を用いた。したがつて通行本とは異なる点が多く、宋版以降の刊本が原本を改竄してきた一端を窺うことができる。また、日本の軍記物語などには「貞觀政要」からの語句の引用が多いが、それは刊本ではなく、当時の写本を用いたものであるから、その出典は本書の利用によって正確を期すことができる。

第95・96巻 貞觀政要 上下

原田種成著
四六六～五三八頁

第117・97・119・109巻 白氏文集 一～十三

岡村 繁著
二七三～七〇〇頁

白氏文集 一～十三

岡村 繁著
二七三～七〇〇頁

「貞觀政要」は古くは単に「詩」とも称した。紀元前十世紀から六世紀頃までの詩三百首が集められている。民謡・宴会の歌・戯いの歌・祭りの歌などに分かれが孔子も「一言もつて敵えば、思ひ邪なし」と評したように、喜びにつけ、悲しみにつけ、素朴な感動が直写されている。内容は叙事詩・叙事詩・恋愛詩など多岐にわたる。「詩經」は儒家の經典としての性格を持つとともに、最古の韻文集として、また当時の民俗・風習の研究資料としての価値も多い。

第110・111・112巻 詩經 上中下

石川忠久著
三〇四～五二〇頁

詩經 上中下

石川忠久著
三〇四～五二〇頁

第113巻 大戴礼記

栗原圭介著
五七八頁

大戴礼記

栗原圭介著
五七八頁

「詩經」は古くは単に「詩」とも称した。紀元前十世紀から六世紀頃までの詩三百首が集められている。民謡・宴会の歌・戯いの歌・祭りの歌などに分かれが孔子も「一言もつて敵えば、思ひ邪なし」と評したように、喜びにつけ、悲しみにつけ、素朴な感動が直写されている。内容は叙事詩・叙事詩・恋愛詩など多岐にわたる。「詩經」は儒家の經典としての性格を持つとともに、最古の韻文集として、また当時の民俗・風習の研究資料としての価値も多い。

別巻

漢籍解題事典

内山知也著
四五二頁

新編漢文大系収録の五十余りの漢籍を含む七百作品以上の日本文化に影響を与えた漢籍を取り上げ解説。漢籍は古来、文学のみならず医学、数学、天文学、易学、史学、思想、政治、地理、芸術等様々な分野において日本文化に影響を与えてきたが、これら漢籍について、いつ、誰が書いたのか、どのような内容か、版本や注釈書にはどのようなものがあるか等、漢籍のテキストの特質を明らかにし、研鑽の手引となる書。

「春秋左氏伝」と同じく左丘明の著と伝えられる「十一卷」。書名の「国語」とは、諸国の物語という意味で、春秋時代における八国（周・魯・齊・晋・鄭・楚・吳・越）の事跡を、それぞれ別に記した歴史書。「春秋左氏伝」が魯国を中心、「春秋」の本文に即して記した編年体の伝、すなわち解説書であるのに對して、「国語」は各国の事跡を総括的に羅列する。間接的に「春秋」の伝という側面があることから、古來「春秋左氏伝」を内伝、「国語」を外伝と呼ばれる。「春秋左氏伝」との併讀によつて、春秋時代の様相を、いつそう詳密にうかがうことができる。

後漢時代、実証主義的な立場から批判精神に富んだ思想家として知られた王充の著。三十巻八十五篇から成る。他にも著書があつたが、今日この書のみが現存する。書名の「論衡」とは、先秦以来のさまざまな論説を衡にかけ、公平な判断を加えて真理を観らかにするという意味である。批判の対象は、主として災異・鬼神・讖緯・陰陽五行などの非合理的思想や俗信仰であり、孔子・孟子・墨子・韓非子の所説に對しても、実証的ないしは唯物的觀點から、きびしい反駁がなされている。當時の社会や思想を激しく批判した「論衡」は、漢代の思想において異彩を放つものである。

³¹子曰、學而不思則罔。思而不學則殆。

子曰く、學びて思はざれば則ち罔し。思ひて學ばざれば則ち

論語 十二
○学 他にならぬ學ぶこと。読書。○思 思索研究すること。○罔 くらすこと。惘と同じで、理にくらく明らかになれないこと。はつきりとその道理がつかめない。○殆 危と同じ。あぶないこと。主觀的な思索だけに頼って、客觀的な博い裏づけがないと、見解が固陋に陥つて危險であるの意。この「殆」には諸説があつて、何要は「疲^ひれる義」として精神疲殆といい、陸徳明はまさに「怠」に作るべしといい、劉宝楠は殆は「疑」と訓じて、「學んで思はざれば、則ち事として徵驗なく、疑つて定むる能はず」(正義)と解した。しかし論語の「名を見て殆^ひきを覗く」(名の「殆」と同義に解釈するのがよいようだ)。

余説 本章は読書と思索の伴わねばならない學問論を説いたもので、学者にとって極めて大切な名言である。論語は「学」の一字に始まつて、全篇孔子の好学をうかがうに足る言葉に充ちている。特に衛靈公篇の「子曰く、吾は嘗て終日食はず、終夜寝^こねず、以て思ふ。益なしあつて、学ぶに如^じかざるなり」(10)や、陽貨篇の六言六蔽^{むつひ}の章は、学の功用を高唱して憚らないものであるが、孔子はその学に加えて沈澁^{しんせき}の思想をもたらすものである。宋の程子はこの五者の中で一を欠くも學に非ざと言つたのは、共に孔子の本旨を述べたものである。

子曰く、異端を攻むるは、斯れ害あるのみ。

通釈
孔子言う、学問の第一の目的は、

く、むしろ弊害があるばかりだ。
○政治と同じ。○異端 聖人たるの道と端緒を異にした学説。息軒は異端とは雜書を謂う（集説）と注した。朱注には、楊朱・墨翟

※原

索引組見本

語句索引

新釈漢文大系 卷数順一覧表

*ご注文の際はお近くの書店様にお申し込みください。

卷数	書名	本体価格	ISBN
1	論語	8,400	9784625570018
2	大学・中庸	7,500	9784625570025
3	小學	8,800	9784625570032
4	孟子	9,200	9784625570049
5	荀子 上	7,800	9784625570056
6	荀子 下	8,400	9784625570063
7	老子・莊子 上	7,000	9784625570070
8	莊子 下	8,800	9784625570087
9	古文真宝(前集) 上	7,800	9784625570094
10	古文真宝(前集) 下	7,800	9784625570100
11	韓非子 上	8,400	9784625570117
12	韓非子 下	8,400	9784625570124
13	伝習録	9,600	9784625570131
14	文選(詩篇) 上	7,500	9784625570148
15	文選(詩篇) 下	7,800	9784625570155
16	古文真宝(後集)	8,400	9784625570162
17	文章軌範(正篇) 上	7,000	9784625570179
18	文章軌範(正篇) 下	7,000	9784625570186
19	唐詩選	12,000	9784625570193
20	十八史略 上	8,400	9784625570209
21	十八史略 下	10,400	9784625570216
22	列子	8,400	9784625570223
23	易經 上	9,600	9784625570230
24	易經 中	11,200	9784625570247
25	書經 上	7,500	9784625570254
26	書經 下	6,600	9784625570261
27	礼記 上	7,500	9784625570278
28	礼記 中	7,500	9784625570285
29	礼記 下	6,600	9784625570292
30	春秋左氏伝 一	8,400	9784625570308
31	春秋左氏伝 二	7,800	9784625570315
32	春秋左氏伝 三	8,400	9784625570322
33	春秋左氏伝 四	9,200	9784625570339
34	楚辞	7,500	9784625570346
35	孝經	7,800	9784625570353
36	孫子・呉子	8,800	9784625570360
37	近思錄	9,800	9784625570377
38	史記 一(本紀上)	7,800	9784625570384
39	史記 二(本紀下)	7,500	9784625570391
40	史記 三上(十表一)	7,800	9784625673078
41	史記 四(八書)	7,000	9784625570414
42	管子 上	8,400	9784625570421
43	管子 中	8,400	9784625570438
44	唐代伝奇	8,400	9784625570445
45	日本漢詩 上	7,800	9784625570452
46	日本漢詩 下	7,500	9784625570469
47	戦国策 上	8,800	9784625570476
48	戦国策 中	8,400	9784625570483
49	戦国策 下	7,800	9784625570490
50	墨子 上	7,800	9784625570506
51	墨子 下	7,800	9784625570513
52	管子 下	8,800	9784625570520
53	孔子家語	9,600	9784625570537
54	淮南子 上	7,500	9784625570544
55	淮南子 中	7,800	9784625570551
56	統文章軌範 上	8,400	9784625570568
57	統文章軌範 下	8,400	9784625570575
58	蒙求 上	8,800	9784625570582
59	蒙求 下	9,200	9784625570599
60	玉台新詠 上	7,500	9784625570605
61	玉台新詠 下	7,800	9784625570612

卷数	書名	本体価格	ISBN
62	淮南子 下	8,800	9784625570629
63	易經 下	8,800	9784625673146
64	文心雕龍 上	7,800	9784625570643
65	文心雕龍 下	7,500	9784625570650
66	国語 上	7,500	9784625570667
67	国語 下	8,400	9784625570674
68	論衡 上	9,800	9784625570681
69	論衡 中	9,600	9784625570698
70	唐宋八大家文譜本 一	8,400	9784625570704
71	唐宋八大家文譜本 二	7,800	9784625570711
72	唐宋八大家文譜本 三	8,800	9784625570728
73	唐宋八大家文譜本 四	7,500	9784625570735
74	唐宋八大家文譜本 五	7,800	9784625673054
75	唐宋八大家文譜本 六	11,000	9784625673221
76	世說新語 上	7,000	9784625570766
77	世說新語 中	7,800	9784625570773
78	世說新語 下	8,800	9784625570780
79	文選(賦篇) 上	7,000	9784625570797
80	文選(賦篇) 中	6,600	9784625570803
81	文選(賦篇) 下	7,800	9784625673023
82	文選(文章篇) 上	7,800	9784625570827
83	文選(文章篇) 中	9,800	9784625570834
84	中国名詞選	7,800	9784625570841
85	史記 五(世家上)	7,800	9784625570858
86	史記 六(世家中)	7,500	9784625570865
87	史記 七(世家下)	7,800	9784625570872
88	史記 八(列伝一)	7,800	9784625570889
89	史記 九(列伝二)	8,800	9784625570896
90	史記 十(列伝三)	7,500	9784625570902
91	史記 十一(列伝四)	8,800	9784625673047
92	史記 十二(列伝五)	7,900	9784625673115
93	文選(文章篇) 下	9,800	9784625673016
94	論衡 下	9,600	9784625570940
95	貞觀政要 上	8,400	9784625570957
96	貞觀政要 下	8,800	9784625570964
97	白氏文集 一	12,500	9784625673245
98	白氏文集 二上	7,200	9784625673108
99	白氏文集 三	8,400	9784625570995
100	白氏文集 四	9,200	9784625571008
101	白氏文集 五	9,200	9784625673030
102	白氏文集 六	8,800	9784625571022
103	白氏文集 七上	7,900	9784625571039
104	白氏文集 八	9,000	9784625673122
105	白氏文集 九	9,800	9784625673061
106	白氏文集 十	9,200	9784625673207
107	白氏文集 十一	9,600	9784625673214
108	白氏文集 十二上	7,500	9784625673153
109	白氏文集 十三	9,000	9784625673252
110	詩經 上	7,000	9784625571107
111	詩經 中	8,400	9784625571114
112	詩經 下	8,800	9784625673009
113	大戴礼記	9,200	9784625571138
114	唐宋八大家文譜本 七	7,800	9784625571145
115	史記 十三(列伝六)	7,500	9784625673184
116	史記 三下(十表二)	7,900	9784625673092
117	白氏文集 二下	7,200	9784625673139
118	白氏文集 七下	6,600	9784625673160
119	白氏文集 十二下	11,000	9784625673238
120	史記 十四(列伝七)	8,500	9784625673191
別巻	漢籍解題事典	9,000	9784625673177

*表記価格は本体価格です。お求めの際は別途消費税がかかります。
本体価格は2018年3月現在のものです。

株式会社 明治書院

〒169-0072 東京都新宿区大久保1-17 TEL 03-5292-0172 FAX 03-5292-6183 http://www.meijishoin.co.jp

1803-10000RAK